

2016.12.21：次世代育成調査特別委員会 本文

○菅原正和委員 私は實際上、交通指導隊の分隊長なので実情を言いますと、小学校は実は学校によってやっているところとやっていないところがあると。それはあります。それで、自転車教室といっても普通の授業の1単位でしかやれないんで、時間が非常に限られているんですね。そこで全部詰め込めといったって、要はちょっとしたルールだけ教えて、それをやるという形なんです。

ちょうど私の近くだと南小泉交通公園というところがありますから、その学校に近いところは環境がよろしくて、要は自転車を学校に持ち込まなくても体だけ行って全部教えらる。そういうところはあるんですが、全部の学校に対してはそういうことはまずできないということはよくあります。

あと、学校によってはPTAの方が積極的に交通指導隊の方を呼んで、あと警察を呼んで、校庭に引いたりとか、あと今自転車のシミュレーションがあったりとか、そういうもので教えているところもあります。

それで、経験から言うと小学校で1年生から6年生までまず教えていない。何学年しか教えなくて、そこから中学生にいくと何もなくなると。現実的にいくと、高校に行くと自転車に乗る確率が非常に上がってくるということで、その勉強が小学校のうち何度かやっても、なかなか覚えられないうちにそのまま上がっていくということがあるので、やはりこういうことはずっと関連してやっていくことでやはり自転車の安全・安心というのは図れるのかなと。

私も先ほど佐藤わか子委員がおっしゃったように、自転車の保険化とか、そういうことはやはり必要だと思っているんで、それと同時に安心・安全のまちづくりをするのであれば、当然そういうこともこの委員会のほうから発信していくことも必要じゃないかと思っております。

○菅原正和委員 今、歩車分離なんですけれども、仙台市の場合、道路に自転車の通行帯があるところとないところで、そこで歩車分離の走り方が実は違うんです。あれが非常にややこしくて、自転車と歩行者とついている場合には歩車分離で歩行者と一緒に走るんですけれども、それがいないところは自転車は車と同じように走って構わないんです。その認識がなかなか難しい。それは警察サイドでもある程度取り締まりをやっているときに、正式に言うと渡ってはいいいんだけど、危ないから一緒にやれないというふうになることもあるんです。その辺では難しいなど。

ただ、今歩車分離に関しては、福岡に行くとも歩車分離が非常に多いんです。あれを見てみると流利的にそんなに渋滞しているのかなと。急に1カ所だけがふえてくるんじゃないんで、全体的にこうなってくればその流れになれてくるということもあるかと思うんですけれども、それは交通の流れはやってみなければちょっとわからないのかなと。そういうことはありますけれども。